

12 一宮工業株式会社

念願だった
横型フライス盤を導入。
仕事の幅を広げ、
さらなる受注拡大に向けて
大きく前進



部品加工の拠点である白鳥工場



熟練工に頼る部分がまだ大きいという



導入した横型フライス盤。横型でしかできない仕事も受注できるようになり、事業の幅が広がった



「横型の導入で可能性が広がった」と夏目雅敏社長

data いちみやこうぎょう

代表者役職名・氏名／代表取締役・夏目雅敏
設立年月日／昭和38年10月1日
住 所／〒441-1231
豊川市一宮町上新切510
電 話／0533-93-2065
F A X／0533-93-4506
U R L／<http://maroon.dti.ne.jp/icmiya>
E-Mail／icmiya-a@sala2.dti.ne.jp
資 本 金／1500万円
業 種／機械加工製品、製缶製品、
搬送機器の製造・販売

金属パレットから部品加工へ

昭和38年に夏目製作所として設立、金属製パレットの専門メーカーとして事業を拡大していった。昭和44年には商号を一宮工業に変更した。鉄製パイプを手作業で溶接してパレット製品に仕上げていたが、溶接ロボットの普及で価格が下がり、昭和の末ごろから業態を次第に変えていった。

現在ではパレットは数%まで比率が下がっている。これに代わって比重が上がったのは機械部品加工。マシンニングセンター（MC）やフライス盤、さらには塗装設備など一式を保有している強み生かし、次第にシフトしていった。リーマンショックの後「部品関係はV字回復したが、パレットはそうはいかなかった」（夏目雅敏社長）ので業態改革が奏功した格好だ。

ただ簡単にはシフトできなかった。

金属パレットは精度要求がさほど厳しくないが、部品加工は1けた上の精度を求められる。発想の転換を求められていた。

より高精度の仕事を

ものづくり補助金については、親しくしている中小企業家同友会の経営者たちが取得しており、存在は知っていた。「当社ではとても無理」と思っていたが一念発起してトライすることにした。「金属パレットは手離れの良い仕事なので楽をしすぎた」反省もある。金融機関の支援を受けながら、「平成26年度補正ものづくり・商業・サービス革新補助金」に採択された。

テーマは「横型CNCフライスの導入と熟練工が有するノウハウとの融合による新たな加工技術の確立」。これまでは縦型フライスしか保有しておらず、念願の装置だった。縦型だ

けではL型ステーなど、直角加工の際に、正確に90度の角度を図るために用いる治具「イケール」の段取りなどで時間がかかっていた。また精度面でも不安があったという。

着実に事業の幅が広がる

横型フライス盤は本社工場から近い白鳥工場（愛知県豊川市）に導入したが、その効果は大きかった。年間に数回寄せられるリピート案件で、極めて精度の厳しいものがある。横型フライスの導入で、生産性の向上を期待していたが、まずまずの結果が得られた。

また、横型の利便性が理解でき、縦型と横型の良い点を使い分けて仕事ができるようになった。加えて「横型でしかこなせない仕事もできるようになった」（同）という。これまでは、縦型フライスを用いて熟練工が行っていた作業を、横型でこなせるよう

になったのは大きい。

さらに同機の導入後、作業者から「横型のMCを購入してほしい」という要望が寄せられ、今年に入って導入した。これも目に見えない効果だ。ものづくり補助金を活用することによって、横型の良さだけでなく、MCの方が守備範囲が広いことも分かった。これら新戦力を生かしながら、仕事の幅を広げたい考えだ。

本格的な部品加工メーカーへ

祖業である金属パレットは限りなくゼロに近づくと見ており、今後は部品加工の専門メーカーになる可能性が高い。

今のところ主要顧客は塗装設備メーカー、芝刈り機の手など3社となっている。受注は安定しているが、一連の設備投資によって受注拡大の可能性が広がった。また、加工だけでなく、塗装ラインの組み立

てなど、新しい仕事も舞い込むようになった。

人手不足に対応して、高齢者や外国人労働者も活用している。幸い同社の本拠地である豊川市周辺には中小製造業が多数立地している。今後は対象エリアを豊川市外に順次拡大していき、部品加工やラインの組み立てを通じて、地元企業に貢献する考えだ。



加工だけでなく塗装ラインの組み立ても受注